



紹介者

谷口 健太郎

ディーコープ  
取締役会長



本田 博人

日本キャタピラー合同会社  
代表職務執行者 社長・CEO

## 次の50年のインフラ構築に貢献したい

1970年代、父の仕事の関係で幼少期を過ごした米国から帰国し、地方都市の中学校に通い始めた。整備されていない道路がまだあり、停電も時折発生し、私が通っていた公立校は冬場の暖房も石油ストーブで、もちろん冷房などなかった。インフラの差に驚いたことを今でも覚えている。

1990年代半ば、商社勤務時代に英国に駐在し、欧州、アフリカ、中東などを回る中で、今度は逆に日本の交通網や上下水道を含めた都市インフラ、治安の良さなど、わが国の素晴らしさを誇らしく感じたものだ。

他国と比較しても住環境の良さを日々感じられるのは、諸先輩方の知恵と努力、実行力の賜物と敬服の至りである。

これまで商社、欧州系重電会社、そして現在の日本キャタピラーで内外のインフラに関わる中、国内では老朽化の更新を中心に取り組み、日本のインフラモデルの海外展開を主眼に置くべきかと思ったときもあった。ただ、今世紀初めから言われているグローバルメガトレンドと、一過性なのか新たなメガトレンドを引き起こす要因となるのかまだ分からない今回のコロナ禍により、わが国のインフラは新たなチャレンジを突き付けられているように感じる。

何十年に一度といわれる異常気象が頻発し、その結果、水害や土砂災害などで苦難を強いられる方々を目にすると、さらなる国土強<sup>きょうじん</sup>靱化の必要性を痛感する。

ゆえに海外からも優秀な人材を確保し、イノベーションの発信源になるためには、内外の若者が日本で働きたい、と思えるよう世界に誇れる交通インフラを活用し、都市部と地方の共生でhub-and-spoke型のワークライフスタイルを実現するための地方への投資も必要と思う。

働きたい・暮らしたい、と思える国を創られてきた諸先輩方の思いを継承していけるよう、通信やデータを活用した情報化施工設備の提供や、熟練した操業技術(OT)とITの融合を支えることで、次の50年を見据えたインフラの構築に貢献していきたい。

▶▶ 次回リレートーク

藤本 昌義

双日  
取締役社長CEO